

久米島町 不登校支援サポート教室(適応指導教室)

# よんなあ教室の1年

# 自己紹介

- ・ 2022年地域起こし協力隊として愛知県から久米島へ移住
- ・ 1年目→中学校の放課後の居場所施設「まなびや」
- ・ 2年目→不登校のための子どもの居場所視察「よんなあ教室」
- ・ 久米島生活が楽しすぎて、だいぶエンジョイしている

及部

およべ

快季

はるき





今年度より

よんなあは方言で、「ゆっくりゆっくり」という意味。

## 子どもの居場所施設「よんなあ教室」が開設

全国的に不登校と呼ばれる児童生徒の数は急増



## 「誰一人取り残さない教育」



### ○不登校の定義○

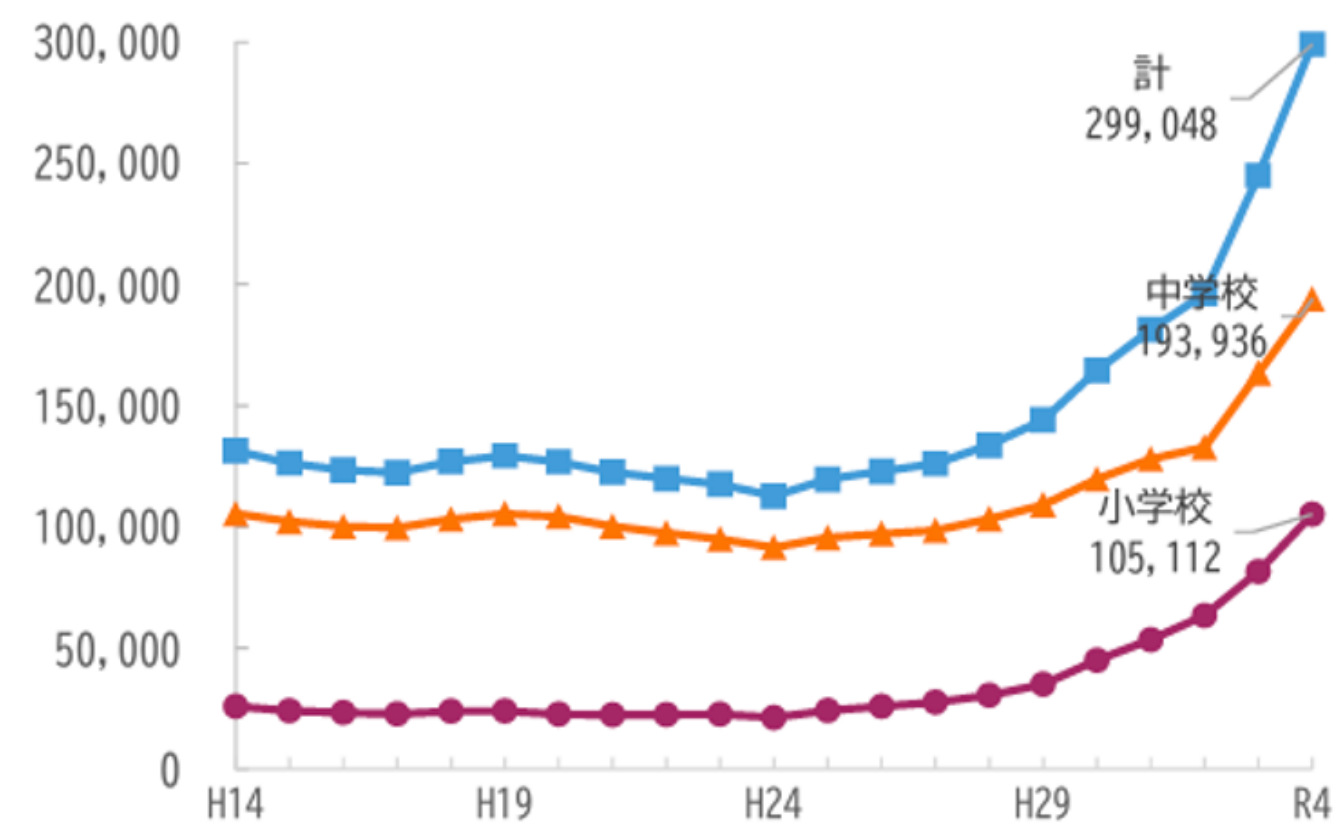
「何らかの心理的、情緒的、身体的あるいは社会的要因・背景により、登校しないあるいはしたくともできない状況にあるために年間 30日以上欠席した者のうち、病気や経済的な理由による者を除いたもの」と定義しています。

【文科省より】



不登校児童生徒数の推移

(人)



# 適応指導教室とは

不登校児童生徒の集団生活への適応、情緒の安定、基礎学力の補充、基本的生活習慣の改善等のための相談・適応指導を行うことにより、その学校復帰を支援し、もって不登校児童生徒の社会的自立に資することを基本にする。

【文科省より】





# 全て1からの立ち上げ





# よんなあ教室完成！

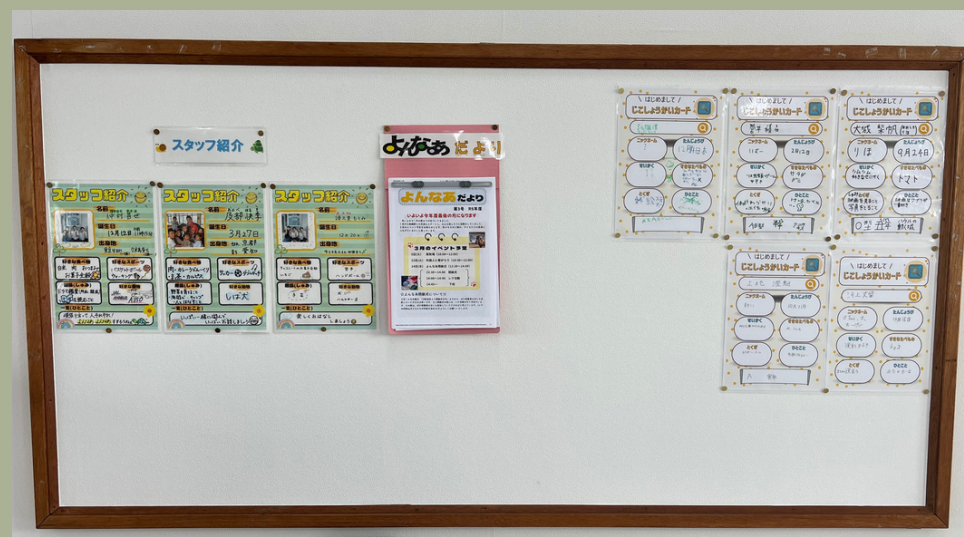
活動スペース



個別スペース



掲示物・自己紹介カード



個人の時間割など

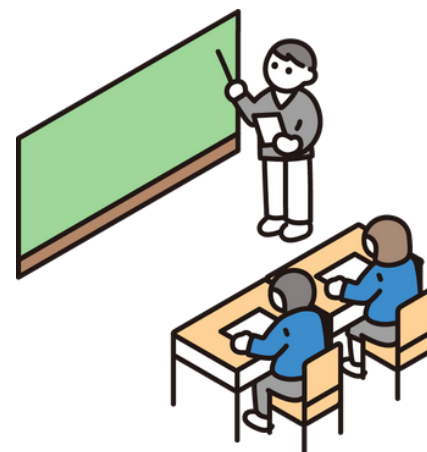




# よんなあ教室の目標

安心な

居場所づくり



## 人とのかかわり

人との関わりが希薄になってしまっている子ども達が多いので、さまざまな人と触れ合う環境を設定

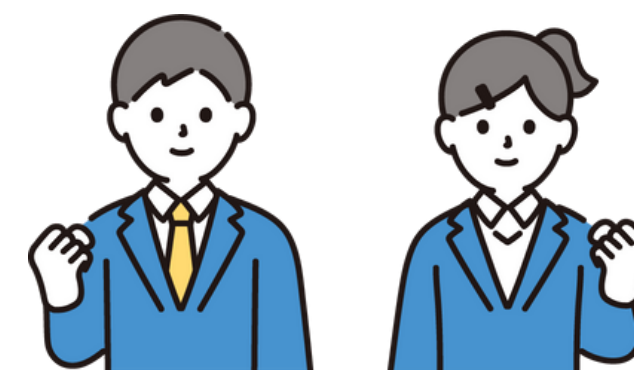


## 学校との連携

あくまで学校に在籍している子どもなので、学校との関係と途切れさせないことが大切

## 学校への登校復帰

本人の意思に基づいて、学校への登校を促す。



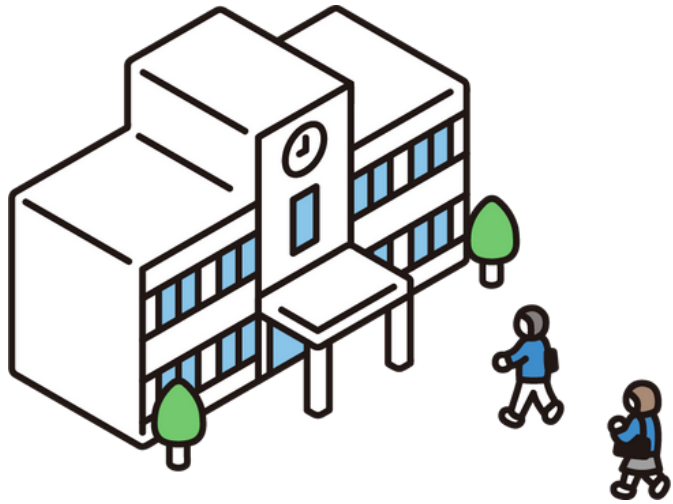
## 学習支援

ここでは予習ではなく、「学び直し」がきほんとなる。





# スタッフの役割



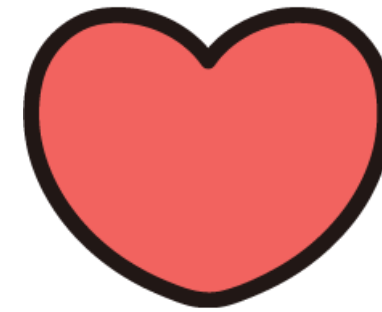
## 居場所

ここに来ることで、心が元気になれる、そんな居場所の提供を目指している。



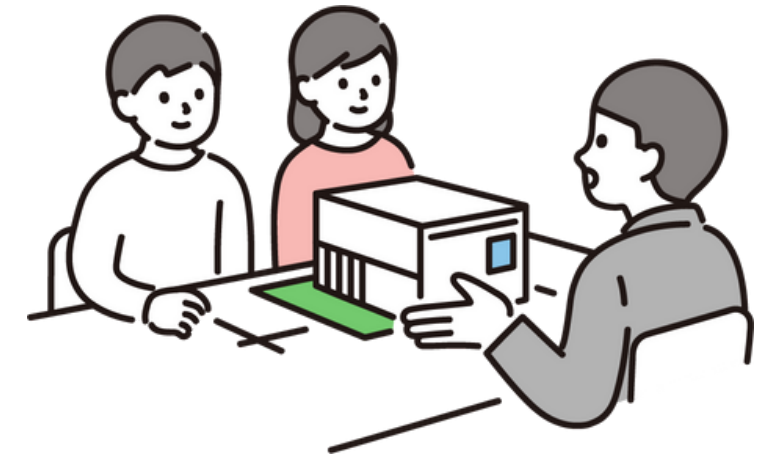
## 傾聴

子ども・保護者ともに、まずはきちんと話を聞くことが、信頼関係を築く第一歩



## 共感・寄り添い

話を聞いた上で、思いに共感をする。安心できる存在になることを目標としている。



## 保護者サポート

保護者を元気にすることが、子どもの学校復帰に大きく影響すると考える。

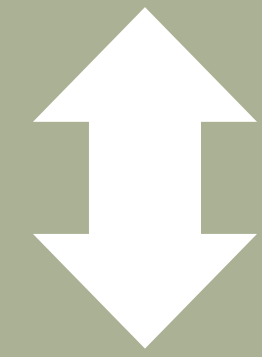
# 子どもが自己選択・自己実現ができる環境を整える



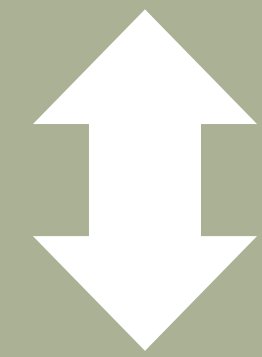
# スタッフの業務内容

- ・ 教室の管理
- ・ 学校との出席のやりとり
- ・ 月に1回の保護者面談
- ・ 必要に応じて、家庭訪問
- ・ 通室判定会議
- ・ 学期ごと情報共有のために学校訪問
- ・ 毎日の子どもの記録・月に1回の通室状況報告書の作成
- ・ 交流イベントや閉級式などの計画
- ・ 通室前面談(学校、保護者・本人ともに)
- ・ 学校、家庭それぞれの送迎

学校



よんなあ教室



子ども・保護者



よんなあ教室の  
時間割

| よんなあ教室      |                                                                                          |
|-------------|------------------------------------------------------------------------------------------|
| 9:00~9:30   | <small>らいしつ けんこうかんさつ</small><br>来室・健康観察<br><small>きょう よていきにゅう とくしょ</small><br>今日の予定記入→読書 |
| 9:30~10:00  | よんなあタイム<br><small>みず さんぽ</small><br>(水かけ、お散歩etc…)                                        |
| 10:10~11:00 | <small>かつどう</small><br>活動①                                                               |
| 11:10~12:00 | <small>かつどう</small><br>活動②                                                               |
| 12:10~13:00 | <small>きゅうしょく はみが せいそう</small><br>給食、歯磨き、清掃                                              |
| 13:00~13:30 | よんなあタイム                                                                                  |
| 13:40~14:30 | <small>かつどう</small><br>活動③                                                               |
| 14:40~15:00 | <small>かえ たいしつ</small><br>ふい返し&退室                                                        |

1 ゆとりを持った時間割

2 午前学習・午後は活動

3 学校復帰を考えた構成



# 午前のようす (基本はみんなで活動)



学習活動

人狼ゲーム



# 午後のようす (基本はみんなで活動)

モルック



フリスビー



総合学習(サンゴについて)



クリスマス会



友達とのかかわりの中で、  
コミュニケーション能力や社会性を学んでいく。



# 閉級式→チャレンジ登校





# 子どもの声

- ・先生たちと出会えてよかった。
- ・自分のペースで学習できる。
- ・勉強を教えてもらえる。
- ・学校のようにうるさく言われない。





# 保護者の声

・ここがなかったら、今年度どうなっていたか分からなかったので、こういう場所ができたことはとても有り難い。

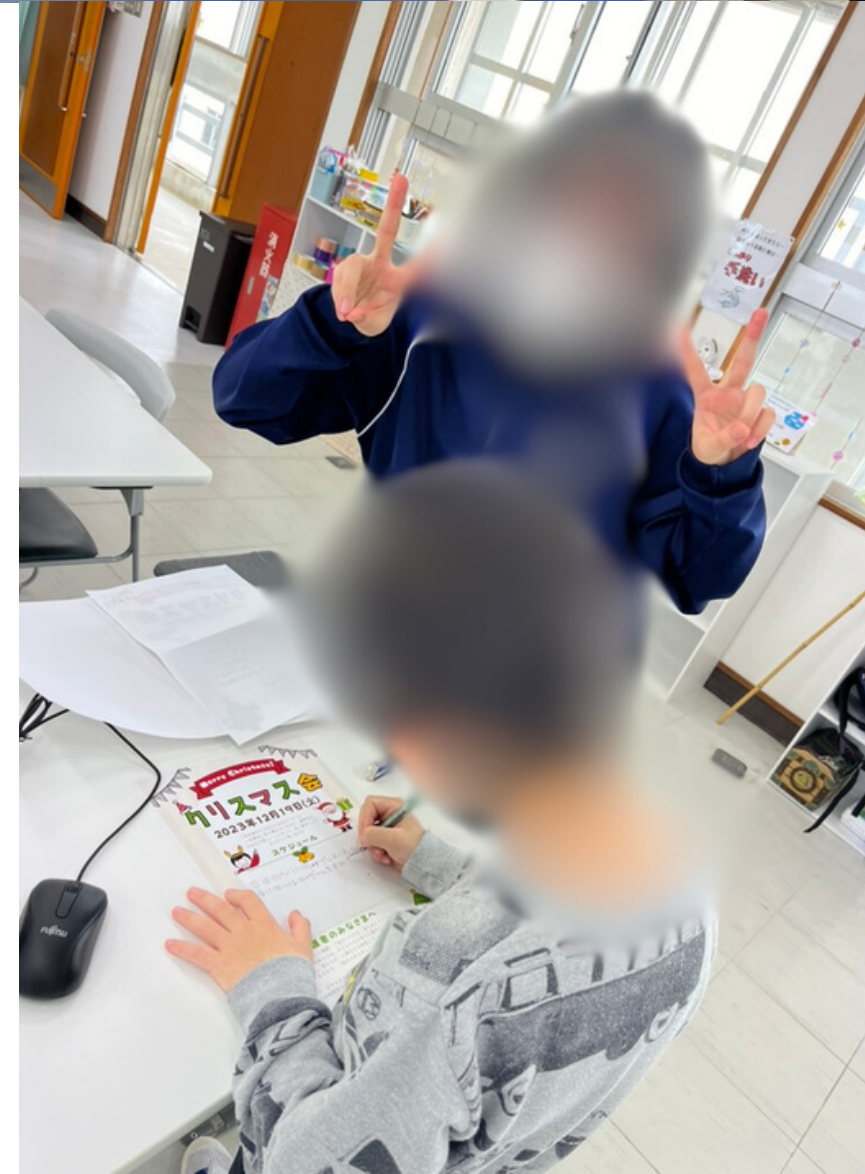
・面談をしながら色々な話を聞いてくれるので、気持ちも軽くなって助かった。通わせてよかった。





# 学校の先生方の声

- ・ 学校側だけではどうにもならないこともあったので、場所ができて、細かく情報を提供してもらえて、大変助かっている。
- ・ 子どもが学校に行けていないという罪悪感を軽減することができていると思う。
- ・ オンラインで繋がれたら...
- ・ 生活リズムが乱れている





# 成果

- ・ 通室児童生徒 現在 9 名
- ・ 子どもにとって、  
学校以外にも居場所ができた
- ・ 保護者の心を軽くできた
- ・ 学校 0 だった A さん →  
現在週に数回学校へ登校



★学校との連携が円滑にできた





# 課題

- ・ 時間割の再編成

→枠の中で子どもが自己決定・自己選択ができるように。

- ・ 心理さんの配置の必要性

- ・ 学校との連携の再確認

→窓口や子どもへの願いの共通理解

- ・ よんなあ教室への取り組みの周知

→現場の声をきちんと届けること

※この仕事に正解・不正解はない。  
トライ&エラーを繰り返して...







ご静聴ありがとうございました！